

海老名市立社家小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第1回)

- 1 日時 令和7年6月12日(木) 13:30~15:00
- 2 場所 海老名市立社家小学校 会議室
- 3 出席委員 津々木美幸委員長、三田英樹副委員長、大乘文孝委員、佐々木宏文委員、春日井委員、水島孝一委員、上田千春委員、金子幸枝委員、曾我幸治委員、浅井大輔校長、尾崎由美教頭、大部信介総括教諭

4 会議の内容

(1) 挨拶

津々木会長：いよいよ梅雨入りし、こどもたちは傘を差しての登校が増えると思う。登下校の安全について注意喚起をお願いしたい。今年度も皆さんと情報共有等進めながら、社家小学校の子どもたちのために力を尽くしていきたい。ご協力を。

浅井校長：次第に暑くなってきており、熱中症についての心配もこれから出てくる。本校の運動会は10月を予定しているが、気温の部分に関して気を付けていかねばならない。過去と同じようにさまざまな行事によっては今まで通りの実施が難しい気候となってきた。安全第一でやっていきたい。体育館の工事もだいぶ進んできている。2学期の始業式から使用ができる。工事業者の方々も大変協力的で、工事の様子を見学させてくれたり子どもたちの質問に答えてくれたりした。まだまだ学校周りの工事もたくさんあり、安全面の配慮も必要であるが、気をつけてやっていきたい。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の水島委員、上田委員へ委嘱状交付。(小澤委員は欠席。)

(3) 自己紹介

(4) 令和7年度の学校経営方針について

浅井校長：ランドデザインについて。今年度のキーワードとして、社家小の強みを前面に出していきたいと考えた。やはり、社家ならではのあたたかさ、地域とのつながり等をキーワードとして、より大切にしていきたい。また、こどもたちにもその実感をさせたいと考える。してもらっただけでなく、学校として意識的・意図的にさまざまな仕掛けをし、地域とつながりながら

学びを深めていってもらいたいと願っている。そして、地域・保護者の方々も一緒に教育・子育てをしている、という実感をもっていただきたいとも考える。

そういった点を踏まえ、今年度は、こどもたちが「つながる力」を高めることをめざす。こどもたち同士、こどもたちと大人、こどもたちと地域、さらには人だけでなく地域の物等ともつながっていく力を、総合的な学習の時間・生活科を軸とした校内研究等を通して取り組んでいきたい。

以上のように、地域とともに学びを作っていくことをめざし、スローガンに掲げた。我々の視野を広げるお手伝いをぜひ皆様をお願いしたい。ぜひともにこどもたちを育てていただければ。

(5) 年間計画等について

大部：日課表について。今年度はクラブの時間を長く確保するためにクラブ日課を新たに設定した。ご承知おきを。年間計画について。予定なので変更がある点、ご了承いただきたい。皆様にはすでに様々な行事等にご協力いただいております、感謝しているところであるが、今後大きな行事として、運動会やふれあい教室では特にお願いすることが多いが、ご協力の程お願いしたい。

(6) 特色ある学校づくり実践事業計画について

尾崎教頭：(資料4)今年度の特色ある学校づくり実践事業計画について。海老名市内の小・中学校全てで組んでいる計画である。本校では4つの柱で取り組んでいる。

1「校内研究の充実」について。昨年度まで国語科の研究を行ってきており、海老名市のひびきあう教育での研究発表をもって区切りとした。今年度は新たに総合的な学習の時間・生活科で研究を始めた。今年度は初年度として、まず教員がさまざまな学びをしながら、学年団で研究授業を一本ずつ、合計3本計画している。

2「キャリア教育」について。昨年度も皆様のご協力のおかげで、とても有意義なものとなった。いろいろな職業に携わる地域の様々な方から貴重なお話を伺う機会となった。今年度も同様に3年生・6年生で実施していきたいと考えている。

3「インクルーシブ教育」について。本校にも様々な個性の児童がいる。全ての子が安心して過ごせるよう、学校づくりや学級づくりを学んでいきたい。研修会等で学びを進めていきたいと考える。

4「地域連携」について。昨年度は青健連さんによる野菜栽培、収穫体験において大変お世話になった。今年度はもう少し進めて、学びを深める教材として活用させていただけたらと考える。また相談させていただき

たい。

尾崎教頭：(資料5)「令和7年度学校運営協議会実施計画」について。社家小学校の児童の実態や地域の特色等について記載されている。詳しくは資料を見ていただきたい。話題に出ているが、地域の皆様におかれては本当に社家小学校への思いをもって支援していただき、大変感謝している。また、今年度も新一年生のボランティア活動に積極的にご協力いただいている。今後とも様々な行事等でご協力をよろしくお願ひしたい。社家小50周年に向けても今後話題にしていきたい。

(7) 情報交換

津々木委員長：最近地域の中で、放課後帰るのが遅い児童が目立っていたが、学校に協力を依頼したころ、すぐに帰るようになった。社家のこどもたちは素直だと感心した。大事にしていききたいところである。また、こども110番に協力している地域の方々も多いので、みんなでこどもを見守っていききたい。

給食について。給食のときに減らす児童が多いことに驚いた。時代とともに食育指導も変化したのだと感じる。

春日井委員：給食について。食べる時間をもう少しとれるといい、とは感じる。

今年度も一年生にボランティアで入らせてもらっているが、とても落ち着いていると感じる。挨拶については全体として、まだまだ課題があるかと思う。

佐々木委員：インクルーシブの視点について。ボランティアで一年生に入っていると、特別支援級の先生のご尽力のもと、4月から比べて特別支援級の児童の成長を強く感じる場所である。そういう点をどんどん発信できるととてもよいのではないか。

大乘委員：昨今のデジタル教育について。ICTを教材としての活用は賛成するが、デジタル教科書の効果はいかがなものか。不易流行、やはり紙媒体の意味、良さもあるのではないか。今後の教育の動向が気になる場所である。

昨年度の学校評価について。教職員が回答した「児童が学習内容について理解しているか。」の項目が若干下がっていることが気になる。このあたりの研究を、教員は専門家としてしっかりしていく必要がある。

いじめ問題について。「自分がされていやなことはしない」という昔から言われていることだが、大切なことである。引き続き伝えていってほしい。また、こどもたちはほめられたい、という前提を忘れずにして教育活動をしていってほしい。

三田副委員長：デジタル教育について。これについては今後いろいろな視点が入ってくるであろう。個人的には、ICTの活用についてはどんどん進めるべきであ

ると感じる。

曾我委員：キャリア教育について。非常によい取り組みで学びとなっていると感じるが、昨今、職業が多岐に渡ってきている。体験をさせるなど、実施の仕方もまた工夫の余地があるかもしれない。さまざまな地域ソースを活用していくとよい。

あいさつについて。地域で子どもたちに会うとよく挨拶してくれる。特に高学年。課題は確かにあるが、個人的には少しずつ浸透してきている気がする。

地域連携について。野菜の収穫体験は今年度もぜひ進めたい。物理的に人数が足りないところが悩みである。また相談させていただきたい。

上田委員：今年度会長を拝命したが、PTAとしても、実働できる人数が少ないのが課題である。PTAの活動の在り方・活動方法についても検討が必要であると思う。

児童の学力低下について。学力が落ちているというか、現代の子どもたちが変化してきているのではないか。それに合わせて教育を変えていくのはとても難しいが、必要なことではあると感じる。可能な限り学校に協力していきたい。

水島委員：「やって見せて、話して、やらせてみせて、褒める。」という指導のプロセスは普遍的なものかと感じる。

金子委員：昨今、ピアスをしている児童や髪を染めている児童が増えたと感じる。

学校に必要なものなのか考え、線引きも必要ではないのか。

通学路について。工事などの危険個所を民選委員の活動として調べている。まとまったところで学校にも情報提供したい。

(7) その他

次回の学校運営協議会は、令和7年10月9日（木）13:30から開催予定。